自立活動の基本



特別支援学校の教師に求められる専門性

多様な実態の子供の指導を行うため、特別支援学校の教師には、障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を十分把握して、これを各教科等や自立活動の指導等に反映できる幅広い知識・技能の習得や、学校内外の専門家等とも連携しながら専門的な知見を活用して指導に当たる能力が必要である。

新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議 報告(2022年1月)

何したらいいの?

肢体不自由の学校だから 体の学習をすればいい?

やってたことを そのままやろう



専門性がないとできない?

自立活動の目標

個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上 又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要 な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって<u>心身の調和</u> <u>的発達の基盤</u>を培う。

特別支援学校小学部·中学部学習指導要領第7章第1

自立活動の位置付け

心身の調和的発達



自立活動は 各教科等の学習の 土台をつくる



各教科

道徳科

外国語活動

特別活動

学習の時間総合的な

調和的発達の基盤自立活動

(障害による学習上又は生活上の困難を改善)

各教科と自立活動の関係

社会の形成者の育成 人格の完成 <教育の目的> 社会に参加し もてる力を発揮する子ども よりよく生きる子ども 調和的発達 道徳科 外国語活動 特別活動

すべての子どもに共通の視点 学びの段階が異なる

調和的発達の基盤自立活動

(障害による学習上又は生活上の困難を改善)

障害による学習上の困難:個の視点 学びの中身が異なる

各教科と自立活動の関係

自立活動で土台を築き その上で社会とつながる各教科等を 積み上げていく

安定した 体調 覚醒

自立活動

見る力 聞く力

> 人に向かう 関心

活動に向かう 姿勢・動き

自立活動の目標

個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う。

一人一人の自立を目指した 主体的な活動

自立活動の指導の対象 子ども一人一人の障害による困難 ⇒ 一人一人異なる



自立活動の指導目標と 指導内容は 個別に設定する

自立を目指す

個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上 又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要 な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和 的発達の基盤を培う。

自己の力を可能な限り発揮し、よりよく生きていこうとすること

自立 = 一人で全てできること ではなく、 支援を受けても、その時点の状態よりも 良い状態を目指すこと

自立活動 二つの要素

人間としての基本的な行動を

遂行するために必要な要素

人として生きていく上で必要なこと

障害による学習上又は生活上の困難を

改善・克服するために必要な要素

その子が困っていること

自立活動の内容 6 区分 27 項

健康の保持	環境の把握
 生活のリズムや生活習慣の形成に関すること。 病気の状態の理解と生活管理に関すること。 身体各部の状態の理解と養護に関すること。 障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること。 健康状態の維持・改善に関すること。 	 1 保有する感覚の活用に関すること。 2 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること。 3 感覚の補助及び代行手段の活用に関すること。 4 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること。 5 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること。
心理的な安定	身体の動き
1 情緒の安定に関すること。 2 状況の理解と変化への対応に関すること。 3 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克 服する意欲に関すること。	 3 姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること。 2 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること。 3 日常生活に必要な基本動作に関すること。 4 身体の移動能力に関すること。
人間関係の形成	コミュニケーション
1 他者とのかかわりの基礎に関すること。2 他者の意図や感情の理解に関すること。3 自己の理解と行動の調整に関すること。4 集団への参加の基礎に関すること	 コミュニケーションの基礎的能力に関すること。 言語の受容と表出に関すること。 言語の形成と活用に関すること。 コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。 状況に応じたコミュニケーションに関すること。

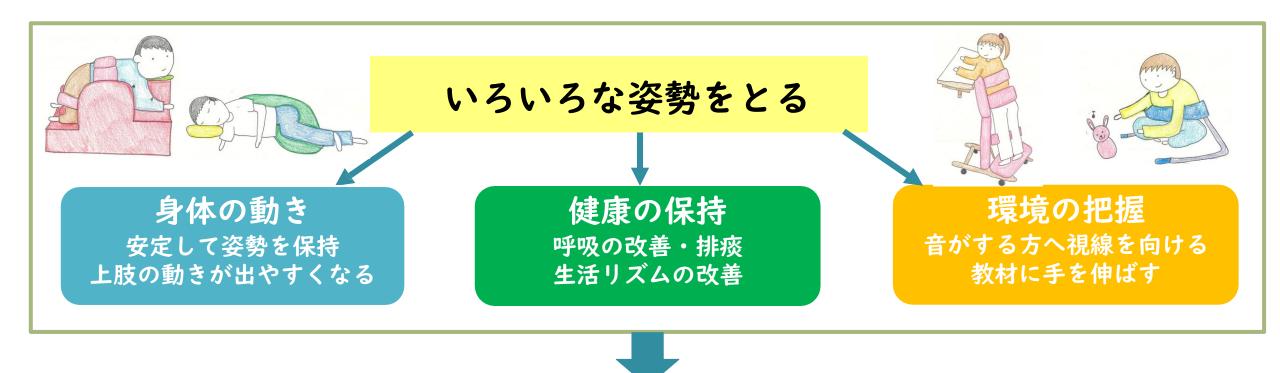
自立活動の内容 6 区分 27 項目

健康の保持	環境の把握
(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関すること。 (2) 病気の状態の理解と生活管理に関すること。 (3) 自体タ虹の比能の理解と養護に関すること	(1) 保有する感覚の活用に関すること。 (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関す スマレ
人として生きてい	く上で必要なこと
心理的な安定 (1)情緒の安定に関すること。	身体の動き (1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること。
てのナか困っ	っていること
てのナか困っ	っていること
(1) 他者とのかかわりの基礎に関すること。 (2) 他者の意図や感情の理解に関すること。	(1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること。(2) 言語の受容と表出に関すること。



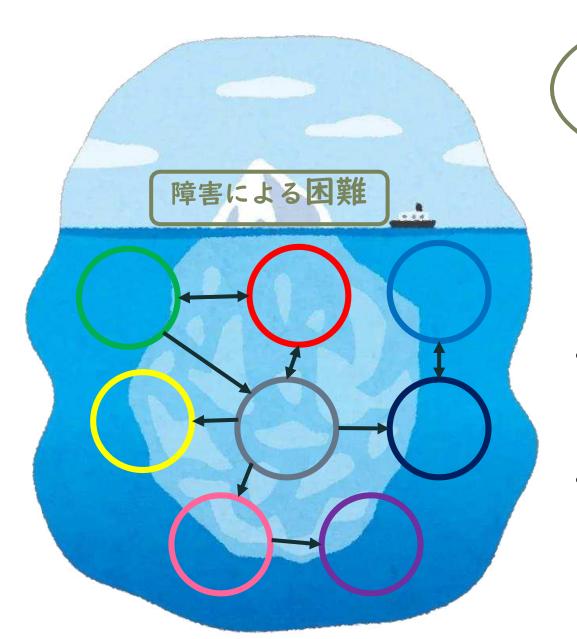
6区分27項目 全てを指導しなくてもよいその子のニーズに合った <u>必要な項目</u>を選び 相互に関連付けて 学習内容を考える

「からだ」の取組は、「身体の動き」に関する内容だけ?



すべては コミュニケーション につながる

その活動を通して 子どもは何を学ぶのか 何を育てたいのかを 考えることが大切



見えている困難さか ら背景や要因を探る

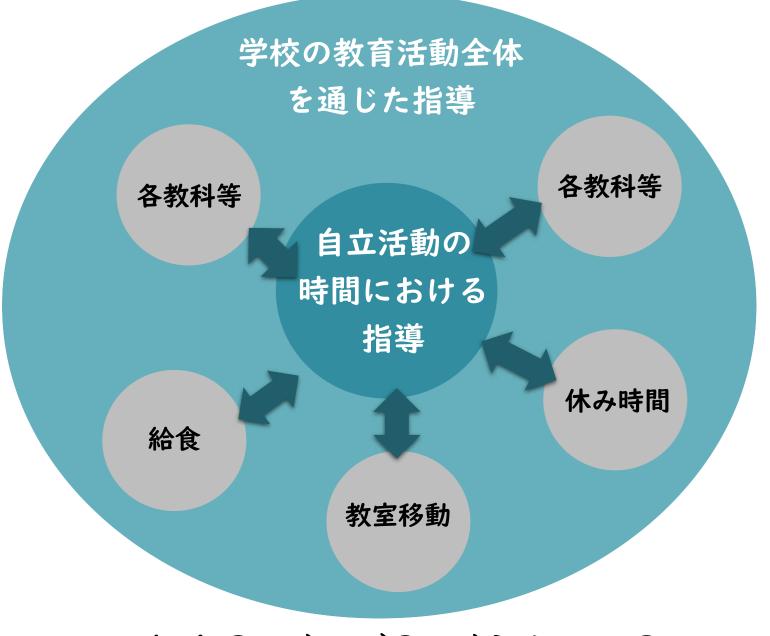


- ・困難の背景にある要因は
 - 一つではなく複雑に絡み合っている
- ・その要因は 子どもによって様々

自立活動の指導の場

学校における自立活動の指導は、障害による学習上又は生活上の困 難を改善・克服し、自立し社会参加する資質を養うため、自立活動 の時間はもとより、学校の教育活動全体を通じて適切に行うものと する。特に、自立活動の時間における指導は、各教科、道徳科、外 国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動と密接な関連を保ち、 個々の児童又は生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を 的確に把握して、適切な指導計画の下に行うよう配慮すること。

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第 | 章第2節2



自立活動の時間に 学んだこと

他の授業や 生活の場面で使う

> ねらいの 共有が大事

何を? どこで? どうやって?

いつでもどこでも自立活動

指導目標

二つの選択肢から、好きな方を指さして選ぶ

自立活動の時間における指導

- ・あぐら座位で頭部を保持する。
- ・玩具を目で追ったり、二つのものを見比べたりする。
- ・玩具に手を伸ばして遊ぶ。

学校の教育活動全体を通じた指導

(生活単元学習)

読んでほしい本を選ぶ。鳴らしたい楽器を選ぶ。

(給食)

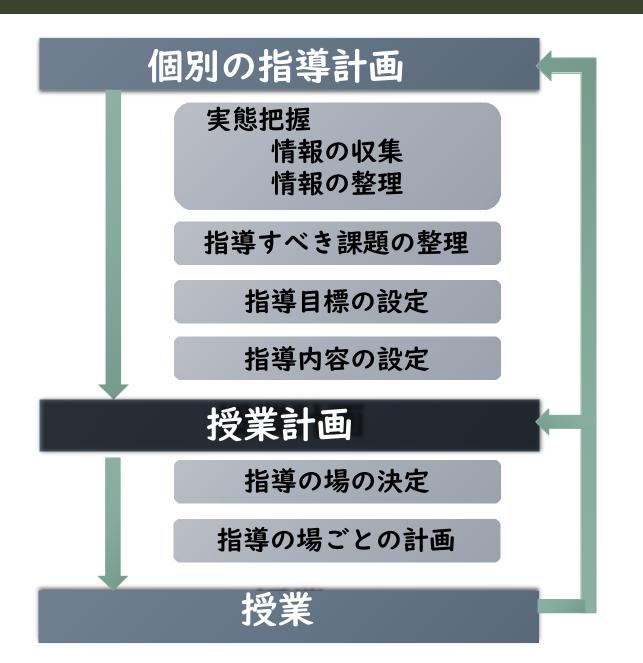
食べたいおかずを選ぶ。

個別の指導計画の作成

自立活動の指導に当たっては、個々の児童又は生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等の的確な把握に基づき、指導すべき課題を明確にすることによって、指導目標や指導内容を設定し、個別の指導計画を作成するものとする。

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第7章3

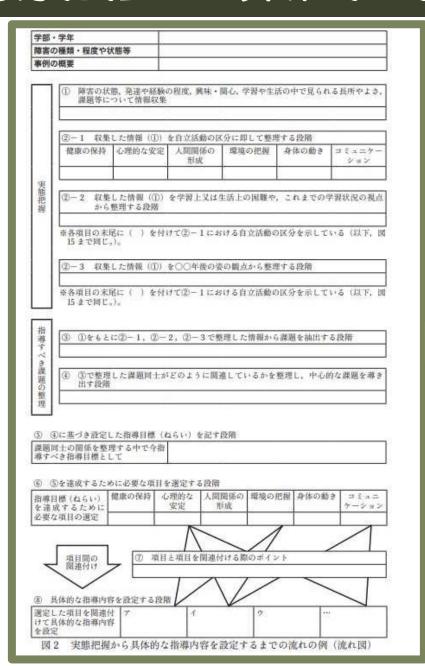
個別の指導計画から授業へ





一人一人の子どもに合った指導を 創り出していく

実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れの例



実態把握から具体的な指導内容を 設定するまでの流れの例

流れ図

(学習指導要領解説 自立活動編)

実態把握 ① 情報の収集

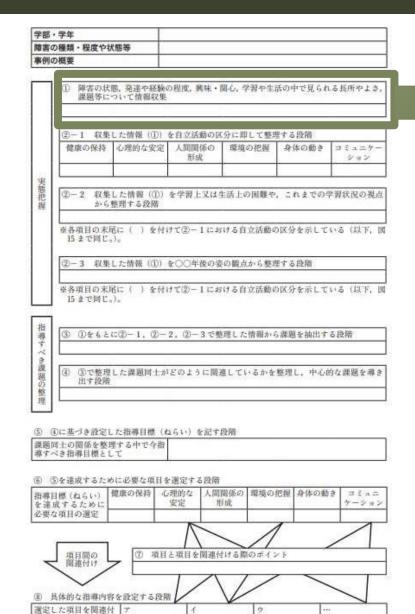


図2 実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れの例(流れ図)

けて具体的な指導内容

- ① 障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、 学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等 について情報収集
- できないことばかりに注目するのではなく、できることにも着目
 - →どのような手立てや配慮、環境であれば、できる、できつつあるのかという視点が大切
- ・子どもは、常に変容し、成長している存在
 - →日々の観察や学習状況から実態把握を修正しながら、深化させていく視点が重要

実態把握 ② 情報の整理

実施 把 ②-2 収集した情報 (①) を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の視 から整理する段階				後の程度。 興味・	関心、学習や生	活の中で見られ	る長所やよき		
世康の保持 心理的な安定 人間関係の 環境の把拠 身体の動き コミュニケション 形成 型車の配類 身体の動き コミュニケション 2-2 収集した情報(①)を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の視から整理する設備 ※各項目の末尾に()を付けて②-1における自立活動の区分を示している(以下、15まで同じ。)。 ② 取集した情報(①)を○○年後の姿の観点から整理する設備 ※各項目の末尾に()を付けて②-1における自立活動の区分を示している(以下、15まで同じ。)。 ③ ①をもとに②-1、②-2、②-3で整理した情報から課題を抽出する設備 出す設備 出す設備 (④) ③ で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導出す設備 によづき設定した指導目標(ねらい)を記す設備 認同回士の関係を整理する中で今指 森すべき指導目標として		8K.85 (P.1-	プト・し油和水	ie.					
形成 ②-2 収集した情報(①)を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の視 から整理する段階 ※各項目の末尾に()を付けて②-1における自立活動の区分を示している(以下、 15まで同じ。)。 ②-3 収集した情報(①)を○○年後の姿の観点から整理する段階 ※各項目の末尾に()を付けて②-1における自立活動の区分を示している(以下、 15まで同じ。)。 指導するとに②-1、②-2、②-3で整理した情報から課題を抽出する段階 ③ ①をもとに②-1、②-2、②-3で整理した情報から課題を抽出する段階 山す段階 ③ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導出す段階 ③ ③に基づき設定した指導目標(ねらい)を記す段階 認題同士の関係を整理する中で今指 認題同士の関係を整理する中で今指 認題同士の関係を整理する中で今指		②-1 収集	した情報(①	を自立活動の記	(分に即して整)	生する段階			
※各項目の末尾に () を付けて②-1における自立活動の区分を示している (以下、15まで同じ。)。 ②-3 収集した情報 (①) を○○年後の姿の観点から整理する段階 ※各項目の末尾に () を付けて②-1における自立活動の区分を示している (以下、15まで同じ。)。 ③ ①をもとに②-1、②-2、②-3で整理した情報から課題を抽出する段階 ④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を利出する段階 理 ② ③に基づき設定した指導目標 (ねらい) を記す段階 講師同士の関係を整理する中で今指 書すべき指導目標として		健康の保持	心理的な安全		環境の把拠	身体の動き	コミュニケー ション		
15 まで同じ。)。 ② - 3 収集した情報 (①) を○○年後の姿の観点から整理する段階 ※各項目の末尾に () を付けて② - 1 における自立活動の区分を示している (以下、15 まで同じ。)。 ③ ①をもとに② - 1、② - 2、② - 3で整理した情報から課題を抽出する段階 ③ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導出する段階 ③ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導出する段階 ② ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導出する段階 ③ ④に基づき設定した指導目標 (ねらい) を記す段階 認題同士の関係を整理する中で今指 本すべき指導目標として	実態把握)を学習上又は	生活上の困難や	, introf	学習状況の視点		
※各項目の末尾に () を付けて②-1における自立活動の区分を示している (以下、15 まで同じ。)。 指導すべき課題 ③ ①をもとに②-1、②-2、②-3で整理した情報から課題を抽出する段階 ③ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を尋出す段階 ② ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を尋出す段階 ② ③に基づき設定した指導目標 (ねらい)を記す段階 。 ●に基づき設定した指導目標 (ねらい)を記す段階		※各項目の末尾に () を付けて②-1における自立活動の区分を示している (以下、図 15まで同じ。)。							
指導すべき 設議の ② ①をもとに②-1,②-2,②-3で整理した情報から課題を抽出する段階 ③ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を尋出する段階 田す段階 ② ③に基づき設定した指導目標(ねらい)を記す段階 課題同士の関係を整理する中で今指 導すべき指導目標として		②-3 収集	②-3 収集した情報(①)を○○年後の姿の観点から整理する段階						
等すべき 選題の 整理 ① ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を構 出す設備 ② ④に基づき設定した指導目標(ねらい)を記す段階 認題同士の関係を整理する中で今指 森すべき指導目標として				付けて②-1にお	おける自立活動の	の区分を示して	+3 (以下, B		
理 (3) ④に基づき設定した指導目標(ねらい)を記す段階 認題同士の関係を整理する中で今指 ネすべき指導目標として	指導文	3 D*68	に②-1, ②	-2, ②-3 €	8理した情報から	6課題を抽出す	る段階		
⑤ ④に基づき設定した指導目標(ねらい)を記す段階 課題同士の関係を整理する中で今指 森すべき指導目標として	7								
護題同士の関係を整理する中で今指 事すべき指導目標として	すべき課題の整理		した課題阿士	がどのように関	連しているかを	整理し、中心的	的な課題を導き		
③を達成するために必要な項目を選定する段階	理	出す段階				整理し、中心的	的な課題を導き		
	理 (5) (2) 課題	出す段階 のに基づき設定し 町士の関係を整理	た指導目標 里する中で今៛	(ねらい) を記す		整理し、中心的	有な課題を導き		

② 項目と項目を関連付ける際のポイント

図2 実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れの例(流れ図)

国 具体的な指導内容を設定する段階選定した項目を関連付 ア けて具体的な指導内容

- ②-I 収集した情報(①)を自立活動の区分に 即して整理する段階
- ・6区分27項目を活用して整理
 - →障害名のみに頼って特定の内容に偏ることがないよう、その子の全体像を捉えて整理する

実態把握 ② 情報の整理

- 学年						
The state of the s	犬態等					
0個姿						
			個心。学習や生	話の中で見られ	こる長所やよさ	
②-1 収集した情報 (①) を自立活動の区分に即して整理する設階						
健康の保持	心理的な安定	人間関係の 形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケー ション	
※各項目の末月 15 まで同じ。	名に () を付け				いる (以下,)	
		けて②-1 にお	ける自立活動の	0区分を示して	₩5 (以下,]	
3 D*62	C②−1, ②−	2,②-3で製	を理した情報から	5課題を抽出す	る段階	
③ ②で整理 出す段階		どのよう(に関)	進しているかを	整理し、中心	的な課題を導き	
	● 世報・程度やわり概要 ① 障害の状に 単題等に ②一1 収集 健康の保持 ②一2 収集 から ※各項目の末に ②一3 収集 ※各項目の同じ。 ③ ①をもと	②一1 収集した情報(①) 健康の保持 心理的な安定 ②一1 収集した情報(①) 健康の保持 心理的な安定 ②一2 収集した情報(①) から整理する殺菌 ※各項目の末尾に()を付け5まで同じ。)。 ②一3 収集した情報(①) ※各項目の末尾に()を付け5まで同じ。)。 ③ ①をもとに②一1、②一	● 程度や状態等 「・	● 程度や状態等 「一	● 程度や状態等	

⑤ ④に基づき設定した指導目標(ねらい)を記す段階

課題同士の関係を整理する中で今指 率すべき指導目標として

⑥ ③を達成するために必要な項目を選定する段階



図2 実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れの例(流れ図)

- ②-2 収集した情報(①)を学習上または生活上の困難や、これまでの学習状況の観点から整理する段階
- ・学習上または生活上の困難の視点で整理
 - →これまでの学習の状況を踏まえ、学習上または 生活上の難しさだけでなく、既にできている こと、支援があればできることなども記載する

実態把握 ② 情報の整理

4.47	の概要				
	(1) 障害の状態、発達や経験 課題等について情報収集		間心。学習や生	舌の中で見られ	Lる抵所やよさ
	②-1 収集した情報(①)	を自立活動の区	《分に即して整月	罪する段階	
	健康の保持 心理的な安定	- 人間関係の 形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケ・ ション
英族把屋	②-2 収集した情報(①) から整理する段階	を学習上又は	生活上の困難や	, これまでの ⁶	学習状況の視
en.	※各項目の末尾に () を付 15まで同じ。)。	けて②-1にお	ける自立活動の	0区分を示して	いる (以下,
	②-3 収集した情報(①)	を〇〇年後の多	長の観点から整理	里する段階	
	※各項目の末尾に () を付 15 まで同じ。)。	けて②-1 にお	ける自立活動の	DIX分を示して	1+5 (以下,
指導すべき課題の整理	③ ①を6とに②-1, ②-	-2, ②−3で∰	を理した情報から	5課題を抽出す	る段階
*展題	③ ③で整理した課題阿士: 出す段階	がどのように関	進しているかを	整理し、中心(的な課題を導
の産					
) (①に基づき設定した指導目標(両士の関係を整理する中で今非	-	段階		
(す)		1			

図2 実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れの例(流れ図)

圏 具体的な指導内容を設定する段階選定した項目を関連付 ア けて具体的な指導内容

- 2-3 収集した情報(①)を〇〇年後の姿から 整理する段階
- ・生活年齢や学校で学ぶことのできる残りの 年数を視野に入れた整理
 - →その子の「○○年後の姿」をイメージしたり、
 り、
 卒業までにどのような力を、どこまで
 育むと よいのか
 を想定したりして整理する

実態把握

【3年後の姿】中学部1年生 様々な人とのやりとりの中で、視線や表情、身体の動きで 感じたことを表出することができるようになってほしい

<健康の保持> 睡眠と覚醒のリズムが不安定 眠った状態で登校することが多い

<心理的な安定> 快・不快を表情などで 表すことができる

<人間関係の形成> 自分の名前を呼ばれても 表情や身体の動きなどで 応えることがあまり見られない

<人間関係の形成> 他者からの関わりに対して 注意を向けることが難しい

<コミュニケーション> 話しかけられても

<環境の把握>

不随意的な眼球運動があり 固視が安定しにくい

<環境の把握> 高い音やガサガサした音がすると 表情を変えたり 声を出したりすることがある

<身体の動き>

腰や肩への教師の援助がないと あぐら座位を保持することが難しい

く身体の動き>

定頸しつつあるが、座位保持装置での座位では 頭部が前傾することが多い

<身体の動き>

教師からの促しがないと 下肢に力を入れて踏みしめる動きが出にくい

> <身体の動き> 首・肩周りの筋緊張が強い

相手に応じることが少ない

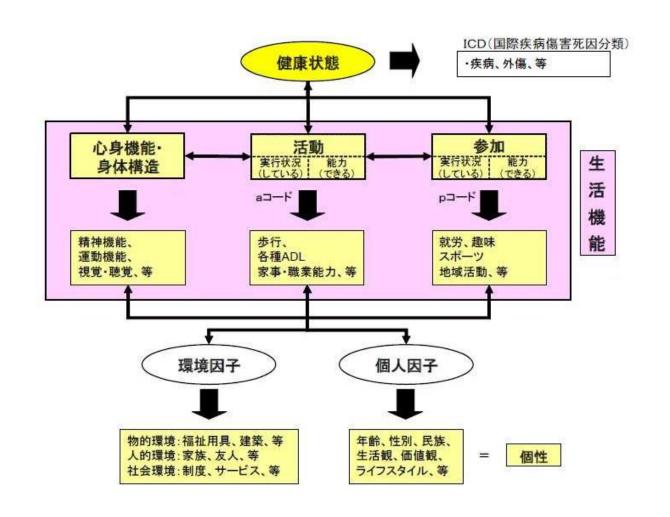
これまでの生活・学びの履歴

・教師の援助を受けてあぐら座位や立位を保持すること、他者からの働きかけに気づくことを目標に学習に取り組んできた。

小学部5年生

- ・腰と肩を支える程度の援助があれば、頭部や体幹に適度な力を入れてあぐら座位を保持することが上達している。
- ・他者からの働きかけや提示された物に気づき、頭部を安定させて視線を向けることがまだ難しい。
- ・興味がある物や活動について、まだ十分に把握できていない。

ICFの考え方を参考



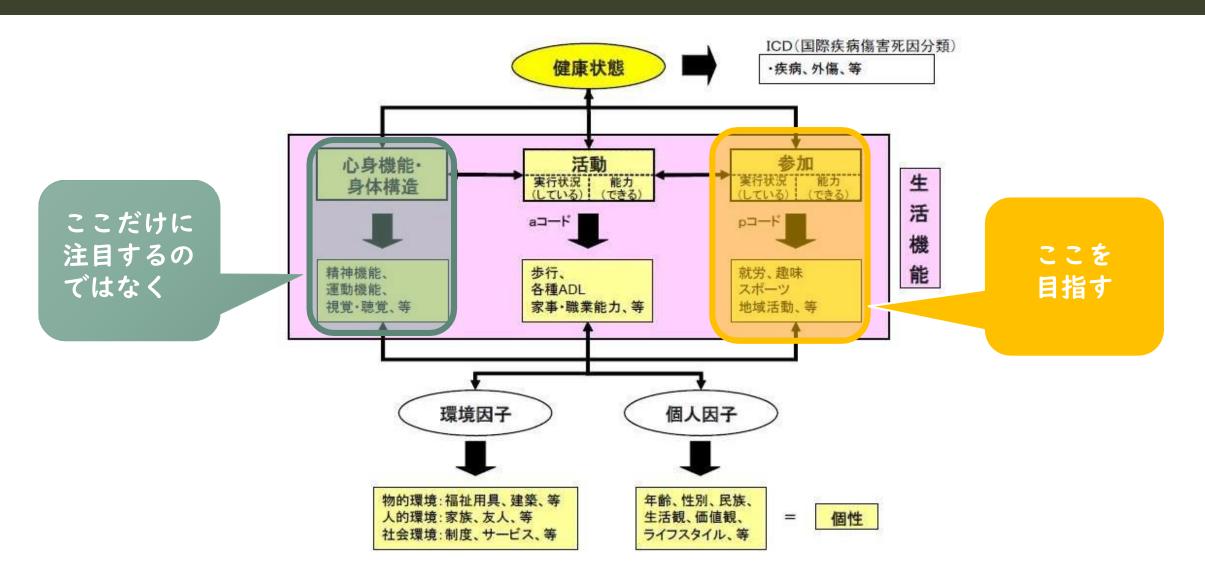


個人因子環境因子

とのかかわりなども踏まえて

その子の 学習上又は生活上の困難 を把握

生活モデルで考える



その人の 生活が豊かになる には? を考える

指導すべき課題の整理③

障害の	・学年					
desiration in the	の種類・程度やも	火態等				
事例の	の概要					
実態把握	課題等に ②-1 収集 健康の保持 ②-2 収集 から ※各項目の末に 15まで同じ。	した情報(①)	を自立活動の区 人間関係の 形成 を学習上又は今 すて②-1にお	分に即して整理環境の把握 環境の把握 上活上の困難や ける自立活動の 観点から整理	聖する段階 身体の動き 、これまでの ⁴ D区分を示して 型する段階	コミュニケーション 学習状況の視点

③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き

(5) ④に基づき設定した指導目標(ねらい)を記す段階

課題同士の関係を整理する中で今指 導すべき指導目標として

出す段階

⑥ ③を達成するために必要な項目を選定する段階



図2 実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れの例(流れ図)

- ③ ①をもとに2-1、②-2、②-3で整理した情報から課題を抽出する段階
- ・②で整理した情報の中から、指導開始時点で 課題となることを抽出する
- →一つ一つの課題に詳細な検討をするよりも、
 必要と思われたものを挙げていく
- →課題の背景やその要因の推測や、できるとき の状況等を整理

指導すべき課題の整理④

学部・学年		
障害の種類・相	是度や状態等	6
事例の概要		

②-1 収集	した情報 (①)	を自立活動の区	分に即して整理	#する段階	70 -
健康の保持	心理的な安定	人間関係の 形成	環境の把拠	身体の動き	コミュニケー ション
					į.

②-2 収集した情報(①)を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の視点

※各項目の末尾に()を付けて②-1における自立活動の区分を示している(以下,図

②-3 収集した情報(①)を○○年後の姿の観点から整理する段階

※各項目の末尾に()を付けて②-1における自立活動の区分を示している(以下,関

③ ①をもとに②-1、②-2、②-3で整理した情報から課題を抽出する段階

(5) ④に基づき設定した指導目標(ねらい)を記す段階

護題同士の関係を整理する中で今指 幕すべき指導目標として

② 因為達成するために必要が毎日を選定する機器

指導目標(ねらい) を達成するために 必要な項目の選定	健康の保持	心理的な 安定	人間関係の 形成	環境の把握	身体の動き	オーション
項目間の関連付け	T A	質目と項目を	関連付ける際	のポイント		
(8) 具体的な指導内(8) 選定した項目を関連	on the same of the	段階 /		19		
出たした。 けて具体的な指導内 を設定					20	

図2 実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れの例(流れ図)

③で整理した課題同士の関連を整理し、 中心的な課題を導き出す段階

・③で抽出した課題同士がどのように関連してい

るのかを整理し、中心的な課題を導き出す

→指導時点で「できること」、「もう少しででき ること」、「支援があればできること」、「でき ないこと」に着目して整理

→ここで導かれた課題は仮説に過ぎない。

見直しを重ねながら課題の整理・精選を!

課題の抽出

【これまでの生活・学びの履歴から】

- 睡眠と覚醒のリズムを整えるため、自立活動の時間を中心に教育活動全体を通して、固有受容覚や聴覚に働きかけたり、抗重力姿勢をとる機会を多く設けたりしている。
- 教師の援助があれば頭部と幹に適度な力を入れて座位を保持することができるようになってきており、車椅子での座位では、頭部を起こす時間が長くなってきた。
- 他者からの働きかけに気づき、注意を向け、やりとりすることに関しては、確かな芽生えや成長は見られていない。

【3年後の姿から】中学部 | 年生

- ■他者からの関わりに対して視線を向けたり身体を動かしたりして応える力を身につけていくためには、 頭部と体幹に適度な力を入れて座位や立位姿勢を保持する力を高めながら、他者との二項関係を確かな ものにする必要がある。
- ■身体の成長に伴い、移乗等の際の介助者の負担が大きくなることが想定される。負担軽減を図るためにも、 立位を保持する力を高める必要がある。

課題関連図

<コミュニケーション> 話しかけられても 相手に応じることが少ない

<身体の動き> 腰や肩への教師の援助がないと あぐら座位を保持することが難しい <身体の動き> 教師からの促しがないと 下肢に力を入れて 踏みしめる動きが出にくい

<身体の動き> 首・肩周りの筋緊張が強い

<健康の保持> 睡眠と覚醒のリズムが不安定 眠った状態で登校することが多い <人間関係の形成> 他者からの関わりに対して 注意を向けることが難しい <環境の把握> 不随意的な眼球運動があり 固視が安定しにくい

指導目標⑤

学部・学年	
障害の種類・程度や状態等	
事例の概要	

(1) 障害の状態。発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ。 課題等について情報収集

②-1 収集	した情報 (①)	を自立活動の区	分に即して整理	聖する段階	
健康の保持	心理的な安定	人間関係の 形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケー ション

危把报

②-2 収集した情報(①)を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の視点から整理する殺器

※各項目の末尾に () を付けて②-1における自立活動の区分を示している (以下、図 15まで同じ。)。

②-3 収集した情報(①)を○○年後の姿の観点から整理する段階

※各項目の末尾に()を付けて②-1における自立活動の区分を示している(以下、関 15まで同じ。)。

指導すべき課題の

③ ①をもとに②-1、②-2、②-3で整理した情報から課題を抽出する段階

③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階

⑤ ④に基づき設定した指導目標(ねらい)を記す段階

課題同士の関係を整理する中で今指 導すべき指導目標として

⑥ ③を達成するために必要な項目を選定する段階



図2 実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れの例(流れ図)

- 5 ④に基づき設定した指導目標(ねらい)を 記す段階
- ・課題同士の関係を整理する中で、今 指導すべき指導目標を設定
 - →指導目標は、<u>学年等の長期的な目標</u>とともに <u>当面の短期的な目標</u>を定めることが

自立活動の効果を高めるために必要

- →子どもにとって意味あること
- →横方向への広がり (内容、人、空間、時間の広がり)

指導目標

目標I

教師が肩と腰の援助をすることで、10秒間程 度両足で踏みしめようと下肢に力を入れるこ とができる。

目標2

教師に言葉を掛けられることや身体を介した関わりに対して、発声や表情、身体の力を抜く、入れるなどで表現し、応えようとすることができる。

必要な指導項目の選定⑥

	0種類・程度や物	犬態等						
事例の	0概要	100						
34								
		態、発達や経験 ついて情報収集		関心、学習や生	活の中で見られ	いる長所やよさ、		
	②-1 収集	した情報(①)	The second liverage and the second	区分に即して整	理する段階			
	健康の保持	心理的な安定	人間関係の 形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション		
実態把握		した情報 (①) 整理する殺階	を学習上又は	生活上の困難や	, これまでの ⁽	学習状況の視点		
	※各項目の末月 15 まで同じ		けて②-1に	おける自立活動	の区分を示して	いる (以下, 日		
	②-3 収集した情報(①)を○○年後の姿の観点から整理する段階							
指	15 まで同じ	.)		おける自立活動:				
指導す	③ ①をもとに②-1,②-2,②-3で整理した情報から課題を抽出する段階							
べき課題の整理	③で整理出す段階		がどのように限	連しているかを	整理し、中心	的な課題を導き		
	0に基づき設定し	*-指導目譜 /	わたい) お記り	- 66 (株)				
課題印	に至りる故心 『士の関係を整り べき指導目標とし	理する中で今指	_	- Deliti				
a (3)を達成するた8	5に必要な項目	を選定する段階	§ .		2-10		
A. S. C. C. C.	標(ねらい)	健康の保持		問関係の 環境の 形成	把握 身体の動	き コミュニ ケーション		

図2 実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れの例(流れ図)

一 関連付け ラ

圏 具体的な指導内容を設定する段階選定した項目を関連付 ア けて具体的な指導内容

- 6 ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階
 - →指導目標を達成するために、どのような指導 の要素が必要か検討する
 - →6区分27項目の内容に照らして必要な要素 を整理する

項目間の関連付け⑦

and the last	・学年の種類・程度や状態	135						
-	の概要	0.17						
	12-11-11-1							
-	(1) 障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよき、 課題等について情報収集							
	②-1 収集し	た情報 (①)	を自立活動の図	分に即して整理	する段階			
	健康の保持	心理的な安定	人間関係の 形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション		
実態把握	②-2 収集した情報(①)を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の視点から整理する殺階							
	※各項目の末尾に () を付けて②-1における自立活動の区分を示している (以下、 l 15 まで間じ。)。							
	②-3 収集した情報(①)を○○年後の姿の観点から整理する段階							
	※各項目の末尾 15まで同じ。)		†τ②−1 にお	ける自立活動の)区分を示して	₩5 (以下,)		
指導すべる	3 D*620	②-1, ②-	2, ②-3で豊	理した情報から	課題を抽出す	る段階		
き課題の整理	③で整理し 出す段階	た課題同士が	どのように関う	直しているかを	整理し、中心(的な課題を導き		
見囲	④に基づき設定し 同士の関係を整理 べき指導目標とし	する中で今指	1らい)を記す	政階				
D (③を達成するため			- Laur	- un T a st - es			
	目標(ねらい) (単 成するために) な項目の選定	康の保持・心		関係の環境の	巴担 身体の動	サーショ		
	The second secon				,			
	項目間の関連付け	②項目	上項目を関連を	196際の#1:	· F	<u></u>		
必要 (田)	項目間の		1/	はる際の#イン	F			

⑦ 項目と項目を関連付ける際のポイント

- →「⑤の指導目標を達成するためには、こんな力を育てる必要がある。だから、区分〇の項目〇と区分□の項目□とを関連付けて指導する」など
 - ④の課題の整理や課題同士の関連のまとまりなどを振り返りながら検討することが大切

具体的な指導内容の設定⑦

事例	の概要							
	(正) 障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、 課題等について情報収集							
	-	した情報(①)		_	and the second second			
	健康の保持	心理的な安定	人間関係の 形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケー ション		
実態把握	②-2 収集した情報(①)を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の視点から整理する段階							
	※各項目の末尾に()を付けて②-1における自立活動の区分を示している(以下, 15まで何じ。)。							
			7 CE/- 1 H-40	いる日光研制の	がながながして	116 (1) 1		
	15 まで同じ。					いる 以下。		
	15まで同じ。)。 Lた情報 (①) Bに () を付い	を○○年後の後	の観点から整理	里する段階			
指導すべ	15 まで同じ。 ②-3 収集 ※各項目の末月 15 まで同じ。)。 Lた情報 (①) Bに () を付り	を〇〇年後の多 けて②-1にお	5の観点から整理 ける自立活動の	型する段階 D区分を示して	₩5 (UF,		

⑥ ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階

具体的な指導内容を設定する段階

指導目標(ねらい)

を達成するために

項目間の開連付け

選定した項目を関連付

けて具体的な指導内容

必要な項目の選定

心理的な

形成

② 項目と項目を関連付ける際のポイント

実能押提から具体的な指導内容を設定するまでの流れの側 (流れ長

人間関係の「環境の把握」身体の動き

3815

ケーション

B 具体的な指導内容を設定する段階

- →学習指導要領解説自立活動編
 - 「具体的な指導内容を設定する際の配慮事項
 - 」を踏まえて検討することが大切
- I)興味をもって主体的に取り組み、成就感を味わうととも に自己を肯定的に捉えることができるような指導内容
- 2) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服しようとする意欲を高めることができるような指導内容
- 3)発達の遅れている側面を補うために、発達の進んでいる側面をさらに伸ばすような指導内容
- 4)活動しやすいように自ら環境を整えたり、必要に応じて周囲の人に支援を求めたりすることができるような指導内容
- 5) 自己選択・自己決定する機会を設けることによって、思考・判断・表現する力を高めることができるような指導内容
- 6) 自立活動における学習の意味を将来の自立や社会参加に必要な資質・能力との関係において理解し、取り組めるような指 導内容

必要な指導項目の選定と指導内容の設定

目標I

教師が肩と腰の援助をすることで、 10秒間程度両足で踏みしめようと下肢に力を入れることができる。

区分	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション	
項目	(I) 生活のリ ズムや生活習慣 の形成に関する こと		(I)他者と のかかわりの 基盤に関する こと		(I)姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること		

指導内容な

教師の促しに応じて 身体各部位の緊張を緩める 教師の援助を受けながら あぐら座位をとり 促しに応じて頭部や体幹に 適度な力を入れる 後方にいる教師からの 膝、腰、肩への援助を受け て下肢に力を入れて 立位姿勢を保持する

必要な指導項目の選定と指導内容の設定

目標2

教師に言葉を掛けられることや身体を介した関わりに対して、発声や表情、身体の力 を抜く、入れるなどで表現し、応えようとすることができる。

区分	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
項目			(I)他者と のかかわりの 基盤に関する こと	(I)保有する感覚の活用に関すること	(I)姿勢と運動・動作の基本 的技能に関する こと	(I) コミュニ ケーションの基 礎的能力に関す ること

指導内容な

教師と一緒に簡単な歌遊びを繰り返し行い 教師からの働き掛けに気付く

特定の教師の言葉掛けや 身体を通したやりとりに注意を向けな がら教師の促しに応じて一緒に腕を挙 げる

自立活動の専門性

その子を 知ろうとする

子どものとらえ が

50

これまでの経験

学びの習得状況

長所やよさ

なってほしい姿

生活年齢 学部・学年

発達の状況

興味・関心

家庭や地域での 生活の様子

身体の状況

健康状態

認知の特性

障害による困難 (学びにくさ)



様子から 捉えを 確かめる 見直す

その子の

子どもがよりよく学びに向かえるよう考え工夫する 自立活動の指導・手立てや配慮

自立活動の専門性

参考文献

- 文部科学省(2018). 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部). 文部科学省.
- 下山直人(監修)筑波大学附属桐が丘特別支援学校・自立活動研究会 編著) (2021, 2022) よく分かる!自立活動ハンドブック I ~ 3. ジアース教育新社
- 北川貴章・安藤隆男(編著)(2019)「自立活動の指導」のデザインと展開─悩みを成長につなげる実践32─. ジアース教育新社.
- 安藤隆男(2021)新たな時代における自立活動の創成と展開 個別の指導計画システムの構築を通して、教育出版
- 古川勝也・一木薫(編著) (2016) 自立活動の理念と実践—実態把握から指導目標・内容の設定 に至るプロセス—. ジアース教育新社.
- 特定非営利活動法人 日本肢体不自由児教育研究会 (2023). 自立活動の指導. 手足 の不自由な子どもたち 肢体不自由教育, 260. 社会福祉法人 日本肢体不自由児協会

•